

北地域の文化遺産 (北地域自治区管内)

【地域の歴史と特色】

北地域には、古代から中世にかけて宇佐八幡宮の荘園の一つとして栄えた瓜生野地区と、中世の山城と近世の薩摩藩文化のたたずまいを残す倉岡地区があり、それぞれ特色ある文化遺産を今に伝えています。

瓜生野地区は、「和名抄」に記載される諸県郡瓜生野郷の名を継承する地域で、11世紀末頃に成立したとされる豊前宇佐八幡の荘園、瓜生野別府に比定されています。

一方、倉岡地区は、中世は倉岡名と呼ばれ、島津庄の寄郡であった穆佐院に含まれていました。中心には倉岡城があり、江戸時代には倉岡郷として薩摩藩の外城の一つに位置づけられ、麓には武家集落が形成されていきました。

【文化遺産マップ】



瓜生野地区

うりゅうのはちまんじんじゃ

① 瓜生野八幡神社

瓜生野八幡神社は、宇佐八幡宮の荘園瓜生野別府の鎮守として勧請され、古くから人々に崇拝されてきました。一説には、勧請の時期は天平9年（737）ともいわれ、宝物として元久元年（1204）銘の懸仏光背一面が伝えられています。

境内には、16本のクスノキが群落をなし、うっそうとして閑寂な社相を呈しています。最も大きいものは、目通り約9.6m、根周り約16mで高さ約25m、最も樹高の高いものは高さ約30mに達しています。

このクスノキ群の由来は不明ですが、他に例のない巨樹群として国文化財指定を受けています。



瓜生野八幡神社のクスノキ群(国天然記念物)

おうらくじ

② 王楽寺

王楽寺は、竹篠山王楽寺と称し、弘仁5年（814）天台宗の開祖伝教大師（最澄）の開山とも伝えられています。一説には、養老年間（717-724）の創建で、「王の楽しみ給ひし所なり」という故事にちなんで寺号を定めたとされています。

境内には、大永2年（1522）銘の五輪塔をはじめ、中世の石塔十数基が残り、当時の繁栄の様子を伝えています。江戸時代後期には、越前国丸岡（現福井県丸岡町）高岳寺末寺となり、明治4年（1871）に廃寺となりますが、同16年（1883）に再興されました。

本尊薬師如来は坐像で像高85.5cm、両脇侍像はどちらも立像で、左脇侍の日光菩薩は像高102.4cm、右脇侍の月光菩薩は像高101.5cmになります。3軀ともに、ヒノキの寄木造りで絹張り漆がけの上、金箔塗りで仕上げられています。平安時代の彫刻技法を用い、鎌倉時代初期に中央の仏師によって彫られたと考えられています。



木造薬師如来及び両脇侍像三軀(国重要文化財)

こんごうじ

③ 金剛寺

建武3年（1336、北朝年号）の創建で、開基檀那は花山院家定妻、開山は佐土原大光寺開山岳翁長甫の法弟祚廣天沢と伝えられています。寺には、原文書3通を含む10通の中世文書が伝えられ、創建当時の瓜生野別府と荘園領主の様子を知るうえで貴重な史料といえます。



金剛寺文書(県有形文化財)

うりゅうのそんごふん

④ 瓜生野村古墳（県史跡）

瓜生野村古墳は、上北方地区と瓜生野地区に分布する高塚墳、横穴群の総称です。当初は前方後円墳1基、円墳6基、横穴40基が指定されていましたが、現在は円墳2基と横穴31基が確認されています。

この近辺には、この他に前方後円墳2基（野首古墳・アブミ古墳）と多数の横穴が未指定古墳として確認されています。



いわとじんじゃ

⑤ 磐戸神社

アマテラスオオミカミが隠れた天磐戸と伝えられる岩窟を本殿とし、拝殿一字を建立した社です。別当寺に吾平山磐戸寺がありましたが、明治2年（1869）に廃寺となりました。

宝物に瓜生野八幡神社と同じ元久元年（1204）銘の懸仏光背一面が残されています。元禄2年（1689）には、磐戸寺に対し、延岡藩主有馬永純より高2石の加増がなされ、元の5石と合わせて高7石が除地とされました。



じきじゅんじ

⑥ 直純寺

山号は笠置山と称し、寺号は延岡藩主有馬直純の名に由来しています。元和年中（1615-24）、直純は稲津掃部助の宮崎城攻めで戦死した宮崎城主権藤種盛の孫、門解を招いて創建しました。初めは光勝寺と称しましたが、正保4年

（1647）に直純の子康純が寺号を直純寺と改めたといわれています。

境内南隅には、権藤種盛父子の墓碑があります。これらの墓碑は、初め池内にありましたが、寺から離れて不便だったため、三世寿円（種盛五代の孫）によって境内に建立されました。



宮崎城主 権藤種盛の墓

倉岡地区

くらおかじょうあと

⑦ 倉岡城跡

倉岡城は、池尻城とも称し、大淀川左岸の南に張り出す独立丘陵上に立地しています。

築城の時期は不明ですが、貞和4年（1348、北朝年号）頃、伊東祐持の日向向に伴い、都於郡城（現西都市）を押領していた守永祐氏が池尻に移っています。また、応永10年（1403）には、兄元久の命により穆佐城に入った島津久豊が、池尻（倉岡）・白糸・細江に城を築いたとされ、このとき倉岡城が城郭として本格的に整備されたことがうかがえます。慶長5年（1600）には、伊東方の稲津勢が糸原などに火を放ったため、地頭丹生備前信房率いる倉岡勢が城に立て籠もっています。

江戸時代初期に記された『伊地知重順覚書』には、倉岡城普請の記事が記され、大手口・水手口・内城・中城・東小城・西小城・外城などの施設名が記されています。現在は、曲輪の一部に倉岡神社が鎮座し、その背後の丘陵に土塁や堀切などの遺構が残されています。



くらおかじんじゃ

⑧ 倉岡神社

当初は凶師大明神と称し、倉岡郷の鎮守として建立されました。江戸時代は、高岡郷の花見村にありましたが、明治4年（1871）に、城山鎮座の稲荷大明神などを合祀して倉岡神社と改称し、現在地に移りました。さらに明治37年（1904）には城山鎮座の愛宕神社を合祀し、郷社に指定されました。

倉岡神社では、2年に1度、秋の御神幸の際、獅子とハレハレが2頭ずつ神様の警護や先触れをして歩く習わしがあります。ハレハレとは、赤と白の鬼面をかぶり、腰に魚籠をさげ、葉のついたかずらを全身に巻きつけた若者が、長さ1間程の青竹で道を清めながら「ハラエタマエ、キヨメタマエ」と進むもので、その言葉が転じて「ハレハレ」と呼ぶようになりました。



民俗芸能 倉岡神社ハレハレと獅子舞

たにむらけいすけきゅうたくあと

⑨ 谷村計介旧宅跡（県史跡）

谷村計介は、嘉永6年（1853）2月13日に倉岡村糸原に生まれました。西南戦争では官軍に属し、薩軍に包囲された熊本鎮台（熊本城）を脱出し、苦心の末、高瀬（現熊本県玉名市）に置かれた官軍本営にたどり着き、救援の密使役を果たしました。その後の田原坂の戦いにおいて、25歳の若さで戦死しています。

旧宅跡には、「贈従五位陸軍伍長谷村計介誕生之地」と刻まれた石碑と墓所が残されています。



りゅうせんじあと

⑩ 竜泉寺跡

竜泉寺は、初め天台宗、後に高岡竜福寺（曹洞宗）の末寺となり、江戸時代は倉岡郷の菩提所として位置付けられていました。現在は、共同墓地として整備されていますが、墓地東端の山腹には、今も歴代住職の墓碑などが残されています。

墓地の一角に、川内川干拓の父と呼ばれ、晩年に倉岡郷で在勤し、88歳で亡くなった小野仙右衛門の墓があります。元和5年（1619）に鹿児島で生まれた仙右衛門は、土木工事の技術を買われ、藩内の多くの開田事業にたずさわりました。延宝7年（1679）には、8年の歳月を費やし、高江地方（現鹿児島県薩摩川内市）の大干拓事業を成し遂げました。このときの難工事に際し、千右衛門は娘袈裟姫を祈願のため人柱として捧げたといわれています。現在、この干拓事業によって開かれた高江地方では、千右衛門の偉業をたたえ、小野神社を建立し、命日には感謝祭が催されているということです。



小野仙右衛門の墓

あさくらでら

⑪ 朝倉寺

朝倉寺は、金崎の朝倉山の中腹にあり、寺伝によれば、百済の官人日羅の開創とされ、日向七堂伽藍の一つとされています。当初は真言宗であったようで、本尊は大日如来、朝倉山龍岸寺と呼ばれていました。その後改宗し、江戸時代は飢肥長持寺末寺、明治17年（1884）の宮崎県寺院明細書によれば、本尊は釈迦如来で曹洞宗と見えます。また、朝倉観音はその奥の院にあたります。

寺には、木喰行道の遺墨とされる書幅が残されています。寛政5年（1793）の作で、「南無薬師如来」の6字と薬師如来像が描かれています。木喰が国分寺（現西都市）住職として日向国に滞在しているときに制作されたものです。

このほか、境内には古城護東寺の六世住職串間円立院が彫刻したといわれる石造仁王像と弘法大師像があり、寺を訪れる参拝客を見守り続けています。



木喰行道筆 南無薬師如来書画一幅(市有形文化財)

かわぐちばんしょあと

⑫ 川口番所跡

薩摩藩では、河川を行き来する船を監視し、人や荷物の出入を取り締まるため、主要河川に津口番所を設置しました。倉岡郷には、大淀川と本庄川が合流している川岸に川口番所が設けられ、鹿児島から派遣された番所役人が取締りを行っていました。付近の地名から、俗に「杣山（そまやま）の関」とも称し、渡船が往来していた現在の柳瀬橋付近は「杣山の渡し」と呼ばれていました。

現在は、河川改修のため様相は一変し、その形跡はとどめていません。



くらおかしょうがっこうのしろばなふじ

⑬ 倉岡小学校のシロバナフジ（市天然記念物）

ノダフジ系の白花の品種シロバナフジで、倉岡小学校の校庭に植栽されており、地域の人々からは「倉岡小学校のシラフジ」と呼ばれ親しまれています。

明治22年（1889）に寄贈を受け、当時の倉岡小学校に移植されましたが、明治42年（1909）の倉岡尋常小学校移転に伴い、現在地に移されました。樹齢は百数十年といわれ、根周り3.1mのまれに見る巨木で、毎年見事な花を付けています。

県内には、中国産のオオシラフジを除けば、他にフジの指定文化財はなく、ましてや日本産ともなれば、全国的にも指定樹木が少なく、貴重な文化財といえます。



くらおかそんこふん

⑭ 倉岡村古墳（県史跡）

糸原地区にある前方後円墳1基、円墳3基、横穴5基が指定されています。現在は、平野部と尾根の突端部に前方後円墳1基と円墳3基、西側の丘陵部に横穴3基が確認できます。

